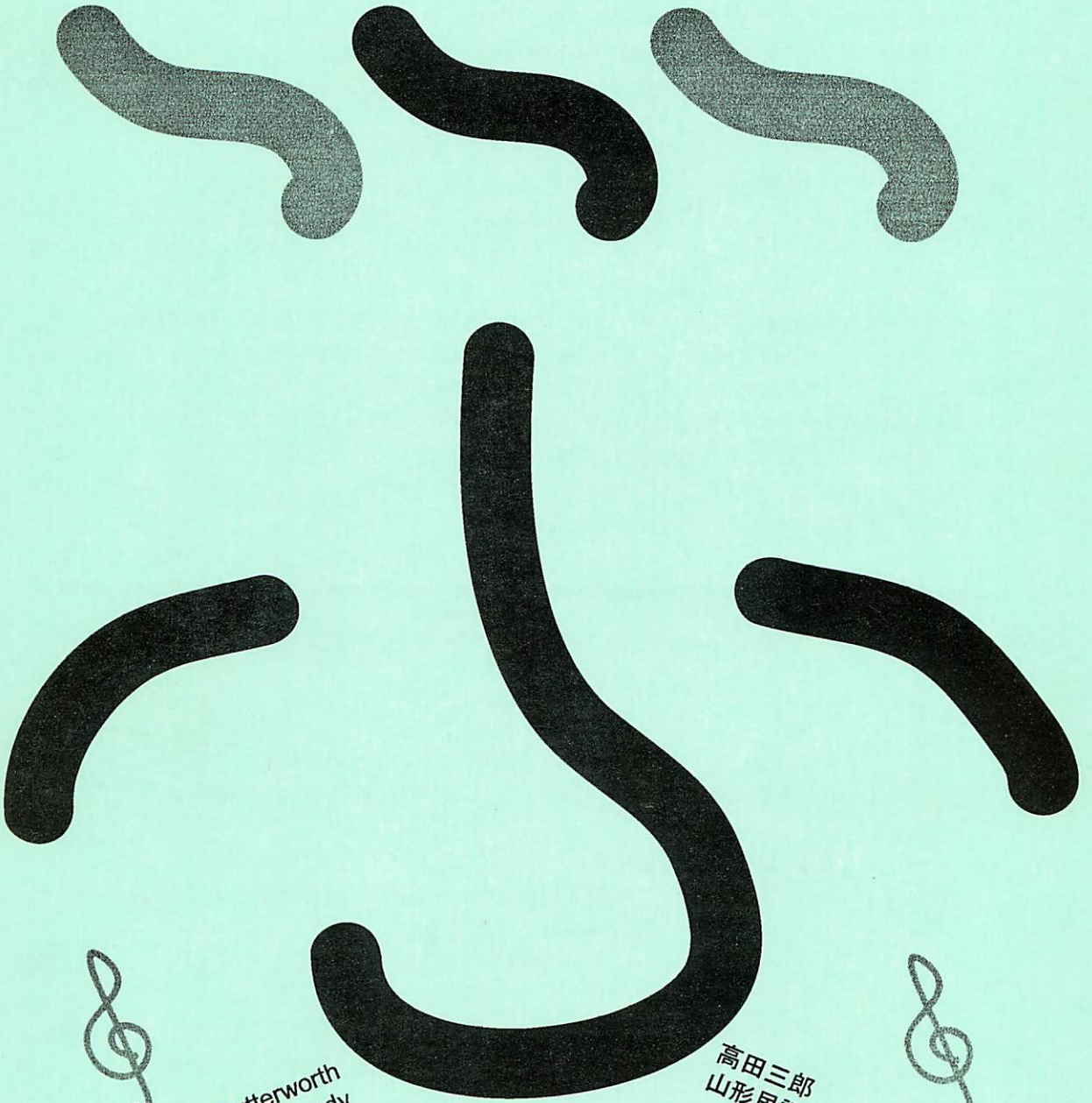


京都フィロムジカ管弦楽団

第11回定期演奏会

2002年6月2日(日)

京都府長岡京記念文化会館



George Butterworth  
"A Shropshire Lad" Rhapsody

高田三郎  
山形民謡によるバラード

ふらんく

César Franck  
Symphonie D-minor

## ごあいさつ

本日ここに「京都フィロムジカ管弦楽団」第11回定期演奏会を開催するにあたり、ご多用にも拘わらず、多数の方々のご来場をいただきまして、誠にありがとうございます。

今回も楽団創立当初よりお世話になり、第6回定期演奏会にも指揮していただきました高谷光信氏のご指導のもと、団員一丸となって取り組んで参りました邦人作品を含め、魅力あふれる曲の数々を披露してくれるものと大いに期待しております。

皆様には、その努力の結実を演奏の中にお聴きいただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、京都フィロムジカ管弦楽団の為に、物心両面にわたるご支援を賜りました皆様方に厚く御礼申し上げますと共に、定期演奏会のますますの発展を祈りまして、ご挨拶とさせていただきます。

京都フィロムジカ管弦楽団顧問 和田 之宏

あるイタリア人指揮者は練習中、オーケストラが自分の思い通りの演奏をしないためこう言ったそうです。「私が望んでいることを感じてほしい」。彼は1954年に引退するまでカリスマと呼ばれ、楽団員に対し専制君主でした。でもこの言葉には大きな意味があります。指揮者はオーケストラにどのように演奏してほしいか言葉で説明はできますが、最終的には音楽はそれを演奏する当の本人に感じとってもらわなければ何にもならないということです。私たちは楽譜と対面するとき、これをどのように演奏するのが一番いいのかいつも話し合っています。自分たちで感じたものを自分たちなりに表現することができれば大きなよろこびです。きょうご来場のみなさまにこの思いが伝わることを願っています。

京都フィロムジカ管弦楽団団長 長岡 武志



### 京都フィロムジカ管弦楽団 第11回定期演奏会

ロビーコンサート (1:15より)

\*\*\*

ジョージ・バターワース / 『シュロップシャーの若者』

George BUTTERWORTH (1885-1916) "A SHROPSHIRE LAD" RHAPSODY

高田 三郎 / 山形民謡によるバラード (ファンタジーとフーガ)

TAKATA, Saburo (1913-2000) BALLAD based on a folk-song (Fantasy and Fugue)

I. Fantasy II. Fugue

—休憩—

セザール・フランク / 交響曲 ニ短調

César FRANCK (1822-1890) SYMPHONIE EN RE MINEUR

I. Lento-Allegro non troppo II. Allegretto III. Allegro non troppo

2002年6月2日 午後2:00開演 京都府長岡京記念文化会館

指揮：高谷 光信

※携帯電話、ポケットベル、アラーム付き腕時計などの電源はお切り下さい。

また、客席でのご飲食・喫煙はご遠慮下さい。

※写真撮影、録音、録画はお断り申し上げます。



## ロビーコンサート

### エイノユハニ・ラウタヴァーラ (1928～) / 組曲「村の音楽師」 op. 1

1. ナルボの楽師達の大合奏 2. コプシン・ヨナス 3. オルガニスト・サミュエル・ディクストローム  
4. 悪魔のポルカ 5. 村の舞踏会

Vn. 1 天澤、田村、川島 Vn. 2 西村、吉野仁 Va. 篠崎 河村 Vc. 多田、菊地 Cb. 名坂

ラウタヴァーラは、フィンランドの現代作曲家ですが、調性を感じさせる躍動感のある曲を書く作曲家です。その才能は、本日演奏する作品1にもはっきりと表れています。冒頭のいきなりの半音の和音、時折見せる悪魔を思わせるような特殊奏法、終曲の暴走。短い曲ながら、「聴ける」現代音楽に仕上がっています。フィンランドの作曲家は決してシベリウスだけではないのです！（西村）

### セザール・フランク (1822～1890) / 「レント」

#### アントン・ブルックナー (1824～1896) / 「前奏曲」

Tp. 遠藤、渡辺 Hrn. 坂口 Pos. 石松 Tub. 別府

フランクはフランスで（出身はベルギー）、ブルックナーはオーストリアで活躍した、いずれも19世紀の作曲家です。2人は直接の親交はほとんどありませんでしたが、非常に深い信仰心を持っていたことや、生前は作曲家としてよりも教会でのオルガン奏者や教育者として高い名声を得ていたことなど、共通した音楽の背景を持っています。

今日お聴きいただきます曲はいずれもオルガン曲を金管アンサンブルに編曲したものです。2人のオルガニストとしての側面を聴いていただきますとともに、共通した性格の中にも垣間見られる個性の違いをも感じていただけますと幸いです。（遠藤）

### ジェルジ・リゲティ (1923～) / 木管五重奏のための「6つのバガテル」より

I. Allegro con spirito IV. Presto ruvido

F1. 江藤 Ob. 中西 Cl. 田中 Hrn. 坂口 Fg. 塚田

ピアノのための11の「ムジカ・リチェルカータ」より木管五重奏に編曲された、現代音楽の巨匠リゲティの初期の作品。リゲティと言えば、映画「2001年宇宙の旅」などにも作品が使われています（6つのバガテルではないのですが・・・） 知らず知らずのうちに彼の作品を聴いている方も多いかもしれませんね。（江藤）

### イリ・イルマル (1925～) (ナガノタカコ編曲) / バーデン・ジャズ組曲 “バーデン・パウエル讃歌”

I. シンプリシタス II. 子守歌 III. ロンド・ア・ラ・サンバ (サンバ風ロンド)

マリンバ: 永野 貴子

イリ・イルマルはチェコの名ギター教師であり、その門下からはヴラディミール・ミクルカなど多数のプロギタリストを輩出しています。バーデン・パウエルはブラジルの生んだボサノヴァの天才。恐ろしくらしいリズム感をもつバーデンに捧げたこの作品は彼が確立したギタースタイルを織り込んだ楽しい曲です。郷愁感あふれるシンプリシタス、南国のまどろみといった感のある子守歌を経てサンバ風のロンドで華麗に締めくくられます。（永野）

## 高谷 光信 (たかや みつのぶ)

1977年京都市に生れる。京都市立堀川高校音楽科(現・京都市立音楽高校)を経て大阪音楽大学音楽学部卒業。大学入学と同時に指揮の勉強を開始。1996年、1998年ロシア・ノボシビルスク国立歌劇場首席指揮者V. プラソロフ氏により指揮のレッスンを受ける。在学中より大阪音大カレッジオペラハウス公演・岩城宏之指揮「金閣寺」・広上淳一指揮「トスカ」、に音楽アシスタントとして参加。

2000年3月京都東風オーケストラのドイツ演奏旅行に指揮者として同行しレーゲンスブルグ、カールミュンツにて指揮し成功を収める。なお同年7月に京都バロックザールにて行われた京都東風オーケストラの帰国公演においても指揮し好評を博した。

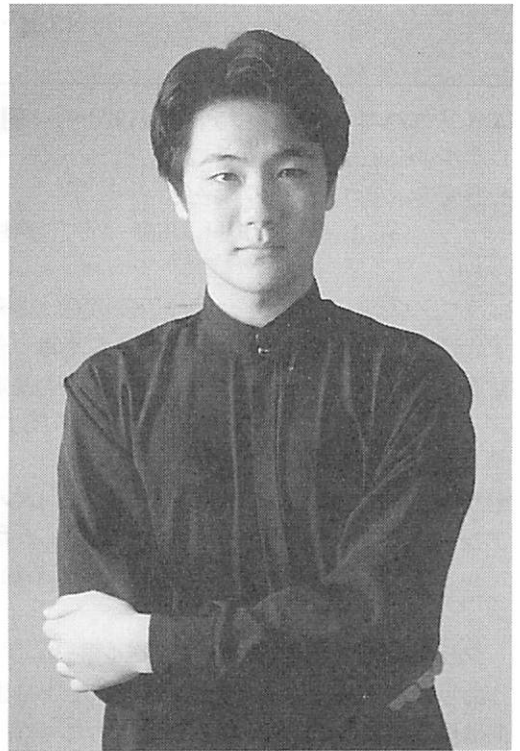
2000年9月 キエフ国立チャイコフスキー音楽院指揮科に入学。ウクライナ国家芸術家エフゲニー・ドゥーシェンコ教授に師事する。

2001年11月にはウクライナ・チェルニーゴフフィルハーモニーを客演指揮しキエフにてプロデビューをする。2002年2月、3月にも同楽団より客演指揮者として招かれチャイコフスキー交響曲第5番、ピアノコンチェルト第1番、ラフマニノフピアノコンチェルト第2番などを指揮し好評を博した。

2002年7月よりウクライナ・チェルニーゴフ・フィルハーモニーの首席客演指揮者として日本人初の就任が正式に決まっており、7月15日から8月1日に行われるホロビッツ国際ピアノ音楽祭にてドイツ、ウィーン、カナダ、韓国などから選抜された優秀なピアニストと協奏曲を共演すると共に就任披露コンサートが行われる。同オーケストラ音楽監督ニコライ・スーカッチ氏より高く評価され、今後国内外での活動が期待される若手指揮者である。

現在までに京都市民管弦楽団、京都フィロムジカ管弦楽団、堺フィルハーモニー管弦楽団、関西フルートオーケストラ、などを客演している。

指揮を伊吹新一、田中良和、藏野雅彦、V. プラソロフ、エフゲニー・ドゥーシェンコの各氏に師事。現在、京都市立芸術大学音楽学部音楽教育研究会弦楽合奏指揮者



# 香雲

ミニコンサート in 大原

音楽と自然の音と朗読、  
そして香りが織りなす  
ヒーリング世界に皆様をお招きいたします。

企画/お問い合わせ先  
プランニングオフィス プロシップ  
TEL/FAX:075-811-9120  
<http://www.pro-ship.com/>

花とコーヒー

# カンパニエラ

Flower and Coffee

Open 8:30am-8:00pm

Holiday Wednesday

Tel./Fax. 075-951-0362

長岡京市天神1丁目1-4 阪急長岡天神駅前

## 「コンサートに寄せて」

京都フィロムジカ管弦楽団第11回定期演奏会に客演指揮者として迎えられ、再会できた事を大変嬉しく思います。

初めてフィロムジカと出会った頃の顔触れとは少し違いますが、音楽を心から楽しむ姿勢は変わる事無く引き継がれていました。

練習指揮者として共に練習した、サンサーンス「交響曲第3番」 シベリウス「交響曲第2番」 ベートベン「交響曲第7番」 エルガー「チェロコンチェルト」等、全ての曲に苦勞や笑い、そして喜びを鮮明に思い出すことが出来ます。本日客演指揮者として、一緒に舞台に立てることは、この上ない喜びです。

前半の2曲は、アマチュアオーケストラが定期演奏会で取り上げる事の少ない作品ですが、民族色が濃く非常に叙情的で素敵な音楽です。フランクの交響曲では、豊かな低音楽器の響きがまるでパイプオルガンの如く鳴り響きます。

今日私達は、音楽の楽しさを感じながら、「作品に込められた想い」を精一杯表現するつもりです。皆様の心にどのように響くか、非常に楽しみです。

最後になりましたが、この演奏会にかける団員、役員の熱い想いにそして、会場にお越し頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

高谷 光信

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ 輸入・販売・修理・調整・製作

**イチイ ヒロキ**  
Violin Workshop  
インターネットショップ OPEN.  
弦3割引。  
[www.violin-workshop.com](http://www.violin-workshop.com)

Violin Shop

VOLIN VIOLA CELLO & BOW 販売・製作・修理・調整

**渡辺弦楽器**

京都店 京都市中京高島川上ル福友町728-4 ☎075-211-0116  
夙川店 西宮市大井手町7-22 ☎0798-70-2006

サークル合宿・ゼミ旅行・スキーに  
海外旅行まで、全てお任せ下さい  
面倒な施設の予約から交通機関まで  
一切の手続きを代行致します。



お問い合わせは…  
TEL.075-351-0405 FAX.075-371-7739  
フリーダイヤル 0120-040-566  
e-mail [fwnet@nyc.odn.ne.jp](mailto:fwnet@nyc.odn.ne.jp)

ときめく出会いー湖西の自然  
マキノ高原

**みくに館 (本館)**  
みくに館山の家 (別館)

春から秋はテニス・各種合宿！  
冬は目の前がマキノスキー場！  
(京都東 I.C. から車で 75 分)

〒 520-1836  
滋賀県高島郡マキノ町牧野  
TEL&FAX 0740-27-1106 (本館)  
TEL&FAX 0740-27-1228 (別館)

## 曲目解説

### ジョージ・バターワース／『シュロップシャーの若者』

ジョージ・バターワースは 1885 年に生まれたイングランドの作曲家である。バターワースは、残した作品数は少ないが、同じイギリスの作曲家ヴォーン・ウィリアムズと親交を持ち、彼の『ロンドン交響曲』に主題を提供するなど、イギリス音楽への貢献には計り知れないものがある。

その繊細で明るい作風はメンデルスゾーンを思わせ、また、故郷の民謡を収集してそこに発想の源を求める作曲姿勢はバルトークを想起させる。

『シュロップシャーの若者』とは、ハウスマン (Alfred Edward HOUSMAN 1859-1936) が 1896 年に発表した詩集の題名である。シュロップシャー地方はハウスマンの生地<sup>の</sup>西方にあり、ハウスマンは佛教で言う「西方浄土」と同様、シュロップシャーに対して「死後の世界」というイメージを持っていたらしい。つまり、『シュロップシャーの若者』は、死んだ若者たちを詠った詩なのだ。

バターワースはこの詩集を使って歌曲を作曲した。さらに、その中の“Loveliest of trees”の詩につけた曲を用いてオーケストラの小品を作曲した。それが今日演奏する『シュロップシャーの若者』である。

*Loveliest of trees, the cherry now  
Is hung with bloom along the bough,  
And stands about the woodland ride  
Wearing white for Eastertide.*

花は桜木、今さかり、／彼岸来ればか、深山地に  
しろたえごころも 白妙衣 身にまとひ／馬場のあたりに立ちつくす。

*Now, of my threescore years and ten,  
Twenty will not come again,  
And take from seventy springs a score,  
It only leaves me fifty more.*

人生わずか七十の<sup>ななそち</sup>／二十はまたとかへるまじ、  
二十の春のかへらねば／のこる五十<sup>いままち</sup>のわがいのち

*And since to look at things in bloom  
Fifty springs are little room,  
About the woodlands I will go  
To see the cherry hung with snow.*

花をさかりの眺めには／五十の春もみじか夜や、  
明けぬ間<sup>ま</sup>にいざ見にゆかん／深山<sup>みやま</sup>桜の花ざかり。  
(矢野蜂人訳詩『近代英文学史 (改訂版)』1929)

二十歳の若さで死ぬであろう運命を受け入れた青年兵が、出征前に（恐らく人生最後になるであろう）桜の美しさを静かに愛でるといふ諦念に満ちた詩である。この詩は、死の覚悟を決めた青年兵たちの共感を得、第1次世界大戦に従軍する兵士たちはこの詩を戦場に携帯していったという。バターワースもこの詩に深く共感した一人に違いない。1916年、第1次世界大戦に従軍したバターワースは31歳で戦死した。

## 高田三郎／山形民謡によるバラード（ファンタジーとフーガ）

この作品は高田三郎（1913－2000）が大学院終了作品として作曲した曲で、音楽学校のオーケストラで初演されたときは高田本人が2番ホルンを吹いていたという（今回この曲を推薦した吉野君は奇しくも2番ホルンで出演する。きっと作曲者になりきって演奏してくれることだろう）。また、高田の妻は「この作品を書き上げた作曲者ならば」と考え、彼の求婚を受け入れる決心をしたというから、高田という作曲家を知るための最重要の作品と言うべきだろう。

この作品の元となっている民謡は山形県近江新田地方に伝わる子守唄だそうだ。

やろててはは てんにんだとよ

やろまたてんじょうさ ゆきたから うらのささぎをてぐるばし

これは、

「お前の父母は天人だということだ。お前もまた天上界へ行きたいなら、裏の笹藪を探しなさい。（そこに羽衣がかくされてあるから）」という意味だそうである。

高田はこの子守唄らしからぬ壮大な想像力に強い感銘を受けたという。第1楽章はこの子守唄の旋律をさまざまな楽器で次々に歌い上げるファンタジー（特定の形式を持たない作品のこと）だ。

後年、高田は日本語にふさわしい音楽の作曲にこだわり続け、日本語訳の典礼文にふさわしい日本風の旋律によるミサ曲や、数々の日本語の詩による歌曲を作曲しているが（高田の歌曲の多くは豊中混声合唱団によって演奏・録音されているので、関西の聴衆にも極めて馴染み深い）、そうした高田の原点がこの楽章にあると言って良い。

第2楽章は非常に優しげな旋律を用いたフーガだが、低音で1楽章の子守唄の旋律が歌われているところにぜひ注目してほしい。

「フーガ」のイタリア語での意味は「逃げる」。特定のテーマをまるで逃げるようにひたすら繰り返し、解決を遅らせ展開していく。フーガを書くにはこうした繰り返し聞かせるに足るだけの優れた主題を書くことが不可欠な条件である。そしてフーガを演奏する際、複雑に綿密に絡み合うそれらの主題は音の構築物の一部となることが要求され、いかなる恣意的な感情も入る余地はない。気まぐれな人間世界から最も隔たった、言わば神の領域に最も近い至高の品格を備えた音楽形式、それがフーガなのである。フーガについて高田は、「ひとつのテーマだけによって音楽を書いていく最も見事な方法」「ある主題をくり返し聴かせる最高の形式」と述べている。

## セザール・フランク／交響曲 二短調

セザール・フランク（1822-1890）はベルギー出身だが、パリに学び、パリの教会オルガニストや音楽院の教師として活躍した人である。「フランキスト（フランク派）」と呼ばれているショーソン、ダンディなど偉大な作曲家たちを育てたフランクは、現在でこそフランス音楽の歴史を作った人物の一人として尊敬を集めているが、生前は作曲家としての評価はきわめて低かった（「バッハの蘇り」と呼ばれるほどのオルガン演奏の大家としては有名だったのだが）。

フランク晩年の傑作であるこの交響曲も完成の翌年に行われた初演（1889年）は大変な失敗であったらしい。華麗で軽妙なオペラが流行していた当時のフランスの音楽界において、彼の生真面目な作風は受け入れがたかったようだ。それだけでなく、この交響曲は当時の常識を超えた破格の作品であるため、そうした前衛性も聴衆に理解を超えていたのかもしれない。

3つの楽章からなるこの交響曲は各楽章に核となる共通の主題がもちいられる（いわゆる「循環形式」）。これはドイツで一世を風靡していたリヒャルト・ヴァーグナーが楽劇の作曲に用いていた作曲技法である。この技法は曲全体を有機的に結びつけて説得力を増す効果があるが、一方で、同じ主題が何度も出てくることで新鮮味を失っていくという危険も同時にはらんでいる。

また、4楽章形式が一般的である交響曲において、フランクの交響曲が3楽章形式である点は特徴的だが、これは通常の交響曲において用いられる「メヌエット」や「スケルツォ」と題された軽快な楽章が、フランクの交響曲には無いためである。これについては、第2楽章の真ん中に快活な楽想を持った音楽が挿入されており、これがスケルツォに相当する役目を負っている、という考え方が一般的である。とすると、スケルツォを全曲の中心にしたシンメトリーを構成することになり、スケルツォを中央に置いた5楽章形式の交響曲であるマーラーの第5・第7・第10交響曲を先取りしているとも言える。これらマーラーの作品はいずれも20世紀のものだから、フランクがいかに時代離れしていたかがわかる。（注）

この第2楽章では、イングリッシュホルンのソロが活躍し、この曲の哀愁を帯びた雰囲気を一層深くする。しかし、このイングリッシュホルンのソロも、初演のときは非難的となったらしい。鬼オベルリオーズの『幻想交響曲』という偉大な先例があるとはいえ、こうした特殊楽器が主役を演じるのは当時としてはまだ珍しかったのだ。ドヴォルジャークが交響曲『新世界より』にイングリッシュホルンの長大なソロを書くのは、フランクの交響曲の初演から4年後のことである。

こうした大胆な手法が理解されなかったのか、初演は大変な不評だったらしい。にもかかわらず、当のフランク本人が「自分の思ったとおりの響きだった」と満足げに語ったというのはあまりにも有名な話だ。弟子のダンディの言葉を借りれば、篤い信仰心を持ったフランクにとって音楽とは『人に聴いてもらうためではなく、神と自分の良心のために最善を尽くすため』のものであり、従って、神への捧げ物としてふさわしい出来でさえあれば聴衆の評価は不必要だったのだろう。



ただし、「神への捧げ物」と書いてしまうと、つい「清らか」で「静か」な音楽のイメージを抱きがちだけど、それだけでは宗教的な作品を理解することはできないと思う。宗教的な作品は「清らかさ」や「静けさ」と同時に、「劇的」で「苛烈」な一面をも持ち合わせているはずだ。フランクが敬愛していたバッハの宗教的作品群だって、『マタイ受難曲』の例を出すまでもなく、きわめて劇的でそして苛烈な一面を持ち合わせているのではないか！ どんな作曲家の作品であれ、宗教的なテキストに基づいた曲（特にキリストの受難と復活を描いた曲）を聴くと、その激しい劇的な内容に慄然とさせられる。

フランクの交響曲も、神への捧げ物であるからこそ、激しく劇的な曲であるはずだ。ちょうど『至福 Les Béatitudes』などフランクの宗教作品が凄まじく劇的な曲であるのと同じように。

日本におけるフランス音楽の伝道師ジャン・フルネ（東京都交響楽団名誉指揮者）はフランクの交響曲について「フランクが望んだテンポや強弱の変化が、半分ぐらいしか楽譜には書き残されていない」として、「自分が演奏するときは、楽譜に強弱や雰囲気などありとあらゆる指示（フランクがそうしたかっただけれど書かずにおいた指示）を書き加える」と述べているが、氏もフランクの交響曲の中に宗教作品として備わっているべき劇的な激しさを感じ取っているのではあるまいか。


またフランクは、湧き上がる創作意欲を控えきれず、講義している途中でも突然五線紙に向かって作曲を始めてしまうなど、（日常生活における謙虚で控えめな振る舞いとは対照的に）こと作曲に関してはきわめて情熱的で激しい人だったらしい。

今回、若々しい熱気を身上にしている我々が、そうしたフランクの交響曲に内在する劇的な激しさと情熱のほとばしりをどのように描くか、どうぞご注目ください。

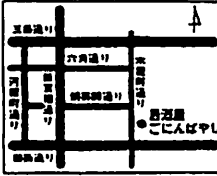
(Tp. 遠藤 啓輔)

(注) なお、3楽章構成、スケルツォを欠くがテンポの遅い2楽章の中にスケルツォ的な軽快な音楽を挿入する、というフランクの交響曲にそっくりな構成をもった交響曲の先例には、ベルヴァルト (Franz Adolf BERWALD 1796-1861 スウェーデン) 作曲の交響曲第3番「風変わりな」があり、フランクの交響曲よりも半世紀近く前の1845年に作曲されている（ただし、初演は1905年）。

・引用文献：鈴木富生『「シロップシアの若者」詳註1』荒竹出版、1982/高田三郎『来し方 回想の記』音楽之友社、1996/高田三郎『ひたすらないのち』カワイ出版、2001/井上道義『第九をうたおう』日本放送出版協会、1991/パトリック・カヴァノー（吉田幸弘訳）『大作曲家の信仰と音楽』教文館、2000/大東省三『音楽選書85 北欧音楽入門』音楽之友社、2000/新日本フィルハーモニー交響楽団配布リーフレット



4~100名 宴会受  
中・木屋町四条上ル  
☎(075) 221-3517



PM 5:00~深夜 12:00  
(土・祝日前~AM 2:00)

京菓子司 創業享和三年

京都 醒ヶ井

亀屋良長

KAMEYA YOSHINAGA  
Kyoto Samegai  
since 1803

京都フィロムジカ管弦楽団「友の会」会員 ご芳名

村上 治子様	村山 義尚様	杉本 里香様
川野 浩之様	村上 明日香様	大八木 文人様
岩佐 聖子様	渡辺 真人様	松村 正人様
田中 直子様	渡辺 和美様	南方 一晃様

今年4月に発足しました「友の会」は、現在、上記会員の皆様方よりご支援いただいております。

(ご芳名の掲載は、2002年5月13日手続き完了分までとさせていただきます。)

♪ アンケートにお答え

アンケートに対する回答、今回で三回目になりました。今回は紙面の都合上わずかしかなかけません。そこで一つだけ、アンコールに関することを書くことにします。

27歳, 男性

アンコールを含め大変意欲的なプログラムですね。とても楽しむことが出来ました。

48歳, 男性

アンコールはもう少しポピュラーなものでよかった

?歳, 女性

アンコールも楽しい軽やかさが出ていて良かった。

三つ抜粋させていただきました。前回の演奏会ではアンコールにお答えして、ブラームスのハンガリア舞曲第三番を演奏しています。好評をいただいて大変うれしかったのですが、「アンコールにはポピュラーなものを」という意見は複数いただいています。

アンコールの選曲も、「アンコールを準備するかしらないか？」を含め、毎回我々の大きな議論のネタになっています(実際侃々諤々の会議をしてきまるのです!)。アンケートの項目にアンコールの欄はあえて設けていませんが、アンコールについての感想もぜひお書きください。(Vn.川島 武士)

印刷のことなら

大地社

〒602-0858

京都市上京区河原町通荒神口上ル二筋目東入ル

TEL (075) 231-1727(代)

FAX (075) 256-4604

都ホテル・新都ホテル専属

岐陽館

小林祐史写場

(駐車場有り)

〒604-0991 京都市中京区寺町通丸太町下ル

電話 (075) 231-1471

FAX (075) 231-1471

# 京都フィロムジカ管弦楽団

Kyoto Philomusica Orchestra

## Concertmaster

天澤 天二郎

## Violins

天澤 天二郎

飯島 光一朗

老川 幸夫

大野 円

小幡 拓也

川島 武士

須賀 みな子

田村 うらら

津田 和子

中島 円

西村 浩輔

西村 祐司

吉野 仁子

飯田 直子※

五十嵐 満美子※

磯貝 文彦※

江口 康子※

大八木 文人※

大和田 健介※

奥田 美抄※

嶋 志保子※

清井 智介※

田代 直子※

## Violas

河村 幸枝

篠崎 淳

瀬尾 倫代

松浦 淳司

上田 三保子※

鶴飼 大介※

長谷山 彩※

長谷山 智仁※

## Violoncellos

小野田 税

菊地 涼

小松 正明

多田 進

奥田 真里恵※

矢野 卓也※

## Double basses

今城 和久

名坂 美香

計盛 創※

山岸 寛志※

## Flutes

江藤 佳美

逸見 正憲

松村 朋美

## Oboes

中西 充弥

山出 涼子

中村 洋子※

## English horn

岡崎 いつ子※

## Clarinets

鶴野 未来

野田 瑠美

## Bass clarinet

田中 慎一郎

## Bassoons

塚田 英城

溝辺 澄子※

## Horns

芦原 俊平

木下 洋輔

坂口 裕志

長岡 武志

名取 良

安田 聖

吉野 文彦

## Trumpets

遠藤 啓輔

渡辺 美智子

天野 修作※

中川 直子※

## Trombones

石松 康介

宮下 秀行

宇佐見 勝也※

## Tuba

別府 一樹※

## Timpani

永野 貴子

## Percussion

芦原 俊平

## Harp

田中 郁子※

※印：客演奏者

## 顧問

和田 之宏

## 団長

長岡 武志

## 弦トレーナー 吉野 美穂

京都市立芸大卒。ヴァイオリンを木村直子、岸辺百百雄、室内楽を種田直之、河野文昭、久合田緑の各氏に師事。

## 管トレーナー 山崎 雅夫

京都大学卒。京都大学交響楽団金管・打楽器トレーナー。

トランペットをC. マクベス、A. ハーゼス、M. アンドレの各氏に師事。

## 木管トレーナー 片寄 伸也

大阪教育大学卒業。シュトゥットガルト音楽大学、トロツシンゲン音楽大学各大学院終了。現在、フリーランスのファゴット奏者として在阪のオケなどにて客演奏者を務める傍ら、ソロ・室内楽の分野でも活躍中。

## ♪ 京都フィロムジカ管弦楽団からのお知らせ ♪

~~~~~

### ♪ 第 12 回定期演奏会 ♪

2002年12月8日(日) 午後1:00会場 午後2:00開演 京都コンサートホール(大ホール)

ショスタコーヴィチ/交響曲第9番変ホ長調

ブルックナー/交響曲第9番二短調

指揮：金子建志

~~~~~

### ♪ 新入団員随時募集中 ♪

募集パート：ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス

オーボエ、ファゴット、ホルン、トランペット、バストロンボーン

※管楽器はオーディションがあります。

※コントラバスは団所有の楽器があるため、楽器に関しては相談に応じます。

詳しくはお問合せください。

Tel. 090-8163-4626 (津田)

E-mail philo\_recruit@artdam.uji.kyoto.jp

~~~~~

### ♪ 「友の会」会員随時募集中 ♪

フィロムジカの活動を応援して下さる方を募集しています。

【年会費】1口 1,000円 【期間】ご入会いただいた月より1年間

【特典】1. 期間内の定期演奏会に、1口につき1名様を無料ご招待

2. その他演奏活動のご案内

3. 定期演奏会プログラムへのご芳名の掲載

お申込み・入会に関するお問合せは、下記までお願いいたします。

Tel&Fax 075-495-1831 (松村)

E-mail philo\_tomo@artdam.uji.kyoto.jp

~~~~~

京都フィロムジカ管弦楽団ホームページ <http://www.artdam.uji.kyoto.jp/philo/>

## クラシック音楽の海外公演・国際交流

海外での公演・国際交流は、現地でのマネジメントが大切です。

弊社は日本のオーケストラの海外公演・国際交流を、真の意味で成功させて参りました。

海外公演・国際交流のお手伝いはおまかせください。

最近の海外公演実績・予定

岡山県桃太郎少年合唱団ドイツ公演98年8月(レーゲンスブルク大聖堂他)

同志社大学交響楽団ヨーロッパ公演98年3月(ミュンヘン・ヘラクレスザール他)

京都市民管弦楽団ヨーロッパ公演99年5月(ウィーン・ムジークフェライン大ホール他)

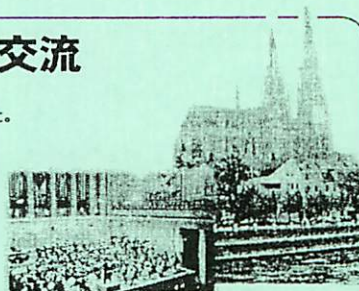
ひこねベルリン第九実行委員会99年12月31日(ベルリン・SFB放送大ホール)

ルーマニア トゥルグ・ムレシュパッサ没後250年記念音楽祭 2000年5月(文化宮殿)

同志社大学交響楽団ヨーロッパ公演2001年3月(グラーツ・ステファニーザール 他)

ホームページ：<http://www.mitsuma.com/agent/oversea>

協力会社：ルフトハンザドイツ航空会社、全日空、JTB、近畿日本ツーリスト、AIU保険会社



(社) 日本クラシック音楽事業協会会員

(株) ミツマ・ミュージックプロダクツ

〒605-0009 京都市東山区三条通大橋東入ル大橋町102 田中ビル5F Tel.075-761-1213 Fax.075-752-5568